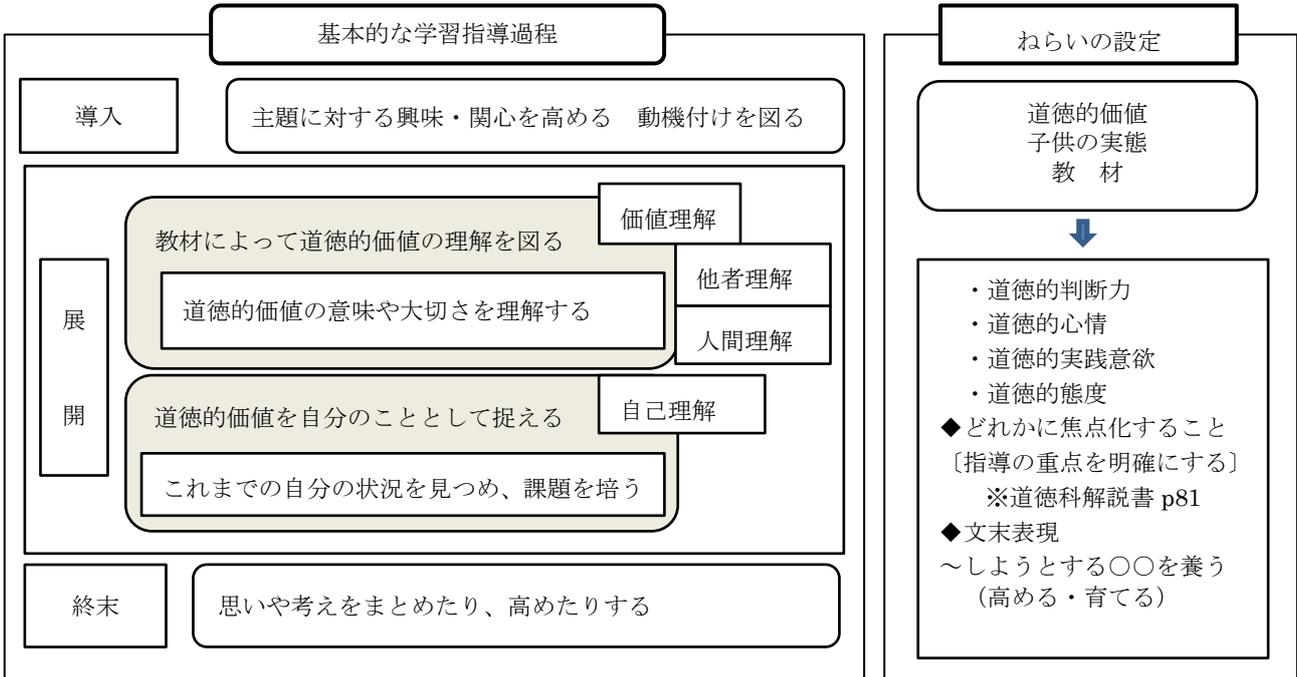


道徳科の学習指導過程と質の高い授業のポイント



質の高い授業に向けて 「考え、議論する道徳」 = 「主体的、対話的で深い学び」
 ※議論とは話し合うことであり、二項対立的な討論ではない。

質の高い授業のポイント①

「道徳的価値の意味や大切さを理解する」段階で

- ◆教材の中の主人公の思いを整理したのち、何が明らかになったか（大切であるのか）を考える。
- ◆主人公の心情を問う中心発問のあとに、価値理解を図るための発問を意図的に設定する。
- ◆「考え、議論する道徳」の中心となる個所として位置付け、話し合う。
- ◆道徳的価値に対する「深い学び」

「泣いた赤鬼」の例

赤鬼は、青鬼の行動から、友達として大切にすることはどんなことであると気付いたのでしょうか。

このお話を通して、「友達」とはどういうものだと思いますか。

「泣いた赤鬼」は、私たちに「本当の友達」とはどういうものだと教えてくれているのでしょうか。

質の高い授業のポイント②

「これまでの自分の状況を見つめ課題を培う」段階で

- ◆自己との対話を多様にする。
- ◆道徳的価値に関わる自分の傾向を振り返られるようにし、一人一人の自己肯定感を高める。
- ◆誰もが自分と対話できるようにする。
- ◆自分自身の傾向と生き方に対する「深い学び」

○自由に振り返る方法
 ○振り返りの場面を教師が用意する方法
 ○振り返りの観点を多様にする方法

能動	受動	肯定
できたこと	されたこと	
できなかったこと		否定